

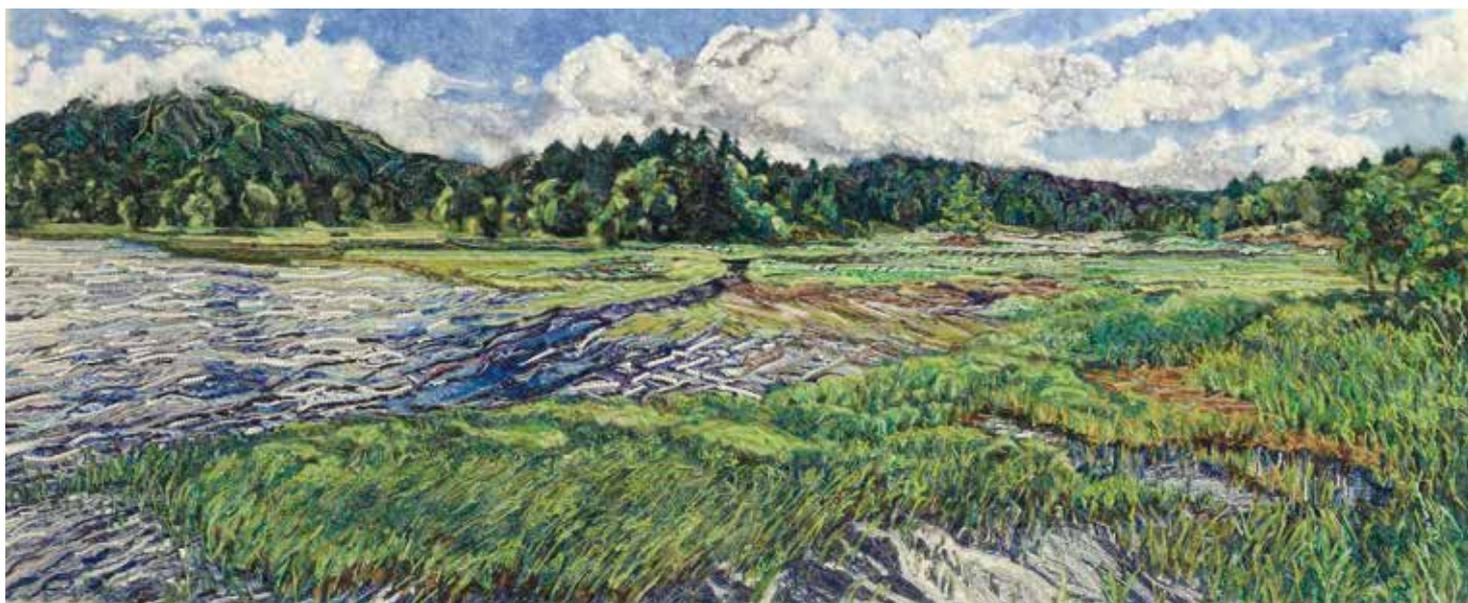
はるかな尾瀬

—目次—

- 02 特集 群馬県 尾瀬山の鼻ビジターセンター開所30周年
- 04 連載 尾瀬の語りべに聞く
- 05 現地情報 ビジターセンターによろこそ
- 06 原をわたる風だより
- 07 おこじょだより
- 08 事務局挨拶／友の声募集
- 09 尾瀬ボランティア情報
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2023.7 vol.52
(公財)尾瀬保護財団



勅使河原 祐子「7月の尾瀬」(2022年1月)

センター 開所30周年

平成5年5月18日 開所式



残雪の多い年でした。山小屋、自治体職員、工事関係者、マスコミなど、たくさんの関係者が見守る中、開所式典が行われました。



現在の展示室とは違って、四方の壁面に加え中央部にも固定式パネルが並べられた常設展示が中心でした。



開所日当日の関係者内覧の様子。尾瀬の入山者最盛期は、ビジターセンターの床が見えないほどの人で埋め尽くされました。



前身の群馬県尾瀬管理保護センター
出典・参考文献：「永遠の尾瀬 自然とその保護」(菊地慶四郎・須藤志成幸著)

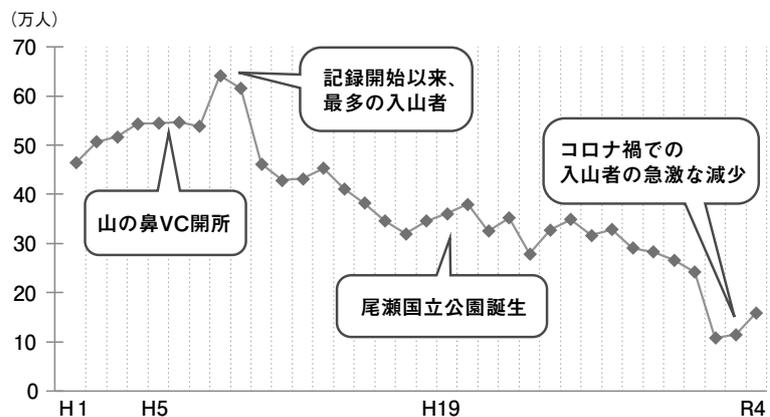
群馬県の設置する、尾瀬山の鼻ビジターセンター(以下「山の鼻VC」という)が平成5年の開所から30周年を迎えました。

山の鼻VCの前身は、群馬県教育委員会が文部省(現 文部科学省)の補助を受けて昭和41年に設置した「群馬県尾瀬管理保護センター」で、現在の山の鼻公衆トイレの場所であり、赤屋根の約100坪の建物でした。当時の尾瀬の湿原は、踏みつけによる泥田化が危惧されていたことから、植物生態学・動物生態学・地学の専門家や山岳救助隊副隊長など6名が尾瀬文化財専門指導委員(現 尾瀬保護専門委員)として群馬県から委嘱され、保護事業への指導助言と基礎研究にあたっていました。また、シーズン中には常駐している3名の尾瀬保護管理員が、その研究のサポートや木道整備、湿原の保護・復元作業などを行っていました。繁忙期には、環境庁(現 環境省)の「サブレンジャー」と呼ばれるアルバイト学生が、ごみ拾いや巡回、観察会、スライドショーを行っていました。管理保護センターは、主に尾瀬の保護と管理を目的とした研究者や管理者の活動拠点施設だったと言えます。

その後、尾瀬人気の高まりを受け、展示スペースを充実させ、自然解説や窓口対応のための機能を強化し、平成5年に現在の場所での山の鼻VCとして開所しました。以降は、保護・管理面に加えて入山者への普及啓発や情報発信にも力を入れ、現在に至ります。

平成8年度からは、前年度に発足した尾瀬保護財団が山の鼻VCの管理・運営を受託しております。なお、平成8年は、尾瀬の入山者数が環境省による調査開始以来最も多い約64万人を記録し、当財団の尾瀬ボランティアが発足した年にもなりました。

平成元年～令和4年の入山者の推移 (環境省データから作成)



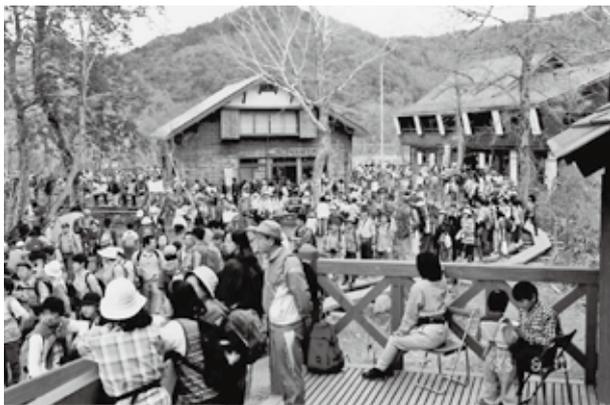
ミズバショウシーズンの土日には、特に入山が集中しています。開所年での最も入山者が多かった日は6/12(土)で、22,633人でした。

群馬県 尾瀬山の鼻ビジター

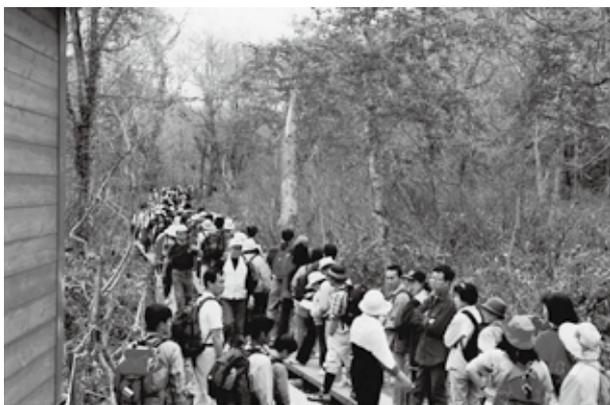
入山者最盛期の大混雑の様子



ミズバショウシーズン、鳩待峠へ帰る入山者が、尾瀬ヶ原方面、研究見本園方面の両方から長い列を作り、大混雑の様子。(H7.6.10撮影)



ビジターセンターのテラス前是人だらけ。鳩待峠への渋滞に加え、休憩所（中央の建物）の左側にはトイレ待ちの列ができていました。(H7.6.10撮影)



山ノ鼻から鳩待峠間の片側交互通行が必要な場所で渋滞が発生すると、ビジターセンターから人の交通整理をするために出動することもありました。列が進まず、疲れて木道に座ってしまう人もいました。(H7.6.10撮影)

ミニインタビュー

平成5年の開所時から長い間、山の鼻VCで勤務し、現在は尾瀬ボランティアの宝珠山^{ほうしゅやま}恭子さんに、その頃を振り返ってお話を聞きました。



一圧倒的に入山者が多かった当時は、インターネットの普及前で、情報収集方法が少ない時代でした。基本的な情報量が極端に少ない傾向があり、現在地を把握できなかったり、引率者とはぐれて途方にくれたりといった「大人迷子」もたくさんいました。

開所当初、職員6名の中で自然解説を主として行うのは私一人で、直接的な対面での活動に限界があったので、それを補う間接的な方法として、折々の見どころや登山道情報を（常設以外の）展示やセルフガイドとして（PCやデジカメも無かったので拙い手書きで）作成していました。業務内容は、巡回・窓口・朝夕の観察会、団体レクチャー・スライドショー・展示作成・公衆トイレ清掃等を基本に、他にも迷いや救急の対応等、繁忙期はとくに忙しく休憩する暇もないほどでした。

尾瀬で働いた間に、たくさんの出来事がありました。その中の一つは、残雪の5月下旬に無人の富士見峠で作業していた時のことです。もう夕方、みぞれ交じりの中、鳩待方向からやってきた2組の登山者と会いました。2組とも更に数時間歩いて山小屋宿泊の予定でしたが、見るからに軽装で疲労していました。すぐ山小屋に電話連絡するよう促し、雪のない戸倉に下ることで事なきを得ましたが、2組とも夏の尾瀬には来た事があるとのことでした。山岳地でもある尾瀬が故のグリーンシーズンと（残雪期や初冬の）厳しい季節との二面性、それを伝える事の難しさや、情報発信の重要性を再認識しました。

尾瀬が物理的に外界から離れ、長らく通信手段も限られていたこともあり、尾瀬内はある意味で共同体としての意識があり、折につけて相互協力しあい乗りきる場面が日常的にありました。

つながりに支えられている実感の積み重ねが、自分にとっての尾瀬を単なる職場以上の場所してくれたと思います。

「尾瀬の語りべ」連載

前号の特集記事で掲載しきれなかった松浦和男さんへのインタビュー内容をテーマごとにまとめて、本号と次号でお伝えします。次号は「救助に関する話」を予定しています。

歩荷ぼっかに関する話

昔は歩荷ではなく、「背負子しよいこ」とか「荷背負にしよい」と呼ばれ、平成になつてから「歩荷」になりました。最近の歩荷は体格が良い人が多く、荷物を随分高く積むようになり、そうすると、尾瀬ヶ原でどんなに混んでいようと、人の頭の列よりも上へ荷物が突き抜けて見えます。それを見た誰かが、荷物が歩いているようだというところで「歩荷」と呼び始めて流行ったようです。

昭和31年の春、長男の私は、卒業と同時に尾瀬専門の馬方（馬で荷物を運ぶ仕事）になり、それからは年200回ほど尾瀬に仕事へ行きました。冬や春先などの、雪があり馬が入れない時期は、戸倉の家から富士見峠を上がり、富士見十字路へというコースで一日おきに、米30kgを背負子で運びました。

昭和38年の戸倉から鳩待峠までの道路開通以前、馬が通るのは三平峠と八木沢新道だけでしたが、開通以降は鳩待峠から山ノ鼻に簡単に行けるようになったので、そこからは鳩待峠から歩荷するようになりました。鳩待峠へ大型バスが運行開始し登山客が来るようになってからも、鳩待峠までの道路は普通の前輪駆動車では通行不可能なほど悪いものでした。しかし、やってくるバスには40〜50人しか乗れないは

ずなのに、80人位乗っていたほどの賑わいで、逆に富士見峠、大清水は静かになってしまいました。それまでは山ノ鼻が尾瀬で1番不便な場所でした。

昔は群馬県教育委員会が尾瀬の様々なことに関わっていて、山小屋の宿泊料金などを一律に決めており、各小屋で決めているものではありませんでした。山の鼻ビジターセンターの前身の管理保護センターが出来た時、ヘリコプターが尾瀬にも導入されて、建材はヘリコプターで上げていましたが、管理保護センターの中で使うものの多くは私たちが鳩待峠から運びました。その時の群馬県教育委員会と交わした契約書が今も残っています。荷物は壊してしまつたら弁償でした。

印象に残っている荷物といえば、ヘリ運送が終わってから、とても大きくて大きな「天然記念物尾瀬」の標柱が届いて、とても担げる大きさではないので皆で運んだことや、鳩待峠から雪上をそりに載せて滑らせ、電柱を運んだことです。また、75キロの荷物を1日最高5回至仏山荘まで運んだこともありました。（最近の歩荷でも3回だそうです）



畳を背負う松浦さん

ビジターセンターへようこそ

Welcome to the
Visitor Centers

尾瀬沼ビジターセンター

新しい尾瀬沼ビジターセンターがオープンして3年目となります。

館内に足を踏み入れると、まだ新築らしい杉の香りがすることに気づかれることと思います。

昭和59年の尾瀬沼ビジターセンターから3代目となる建物です。

入口手前のテラスも以前よりかなり広くなったので、休憩等でより多くの方にご利用いただけるとと思います。

利用者の皆様に、尾瀬の自然をより深く知っていただけるように、尾瀬沼ビジターセンターではシーズン(5月中旬から10月末)を通して様々なイベントや企画展示を実施しております。皆様にご好評の尾瀬の自然を解説するミニツアーは、午前と午後の毎日2回実施しています。

それから、土日祝日の前夜19時からスライドショーも開いています。スライドショーでは、尾瀬国立公園にある山々の特徴や、尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺になぜ湿原が多く出来たのかを理解していただいたり、半年を雪に覆われる中で可憐な花を咲かせる植物の秘密を説明したり、尾瀬の見所や、その折々の花などの説明を入れて、尾瀬に来ていただいた皆様にもっと深く尾瀬を知っていただけるように工夫しています。

その他、星空観察会、ナイトハイク、スライドショーの翌朝に行う「朝イチ観察会」なども実施しています。

5月から6月のミズバショウ、7月のニッコウキスゲ、そのついでに尾瀬沼ビジターセンターを訪れるということでも大歓迎です。

ぜひ実際に尾瀬を訪れて、全身で尾瀬を感じ取っていただきたいと願っています。

皆様にお会いできる日を楽しみにしております。



ビジターセンター内部



受付カウンター



展示室



外観

山の鼻ビジターセンター

去年は記録的な大雪となり、キレイな花々を見ることができましたが今年はどうなるでしょうか。

山の鼻ビジターセンターでは展示室の展示をリニューアルし、4年ぶりに触れて楽しめる展示を増やしました。そして、尾瀬のいきものたちの展示を強化し、見て楽しめる工夫もしています。

イベントでは、土日祭日の前夜18:00からスライドを使用して尾瀬のお話をする「夜のスライドレクチャー」と土日祭日の朝7:15から山ノ鼻に位置する研究見本園を、ビジターセンターの職員と一緒に半周しながら自然観察をする「朝の観察会」を行っています。いずれも無料で参加自由ですので、尾瀬でご宿泊の際はぜひご利用ください。

3年間、新型コロナウイルスの影響で、尾瀬の入山者数が記録的な減少となりましたが、今年は尾瀬の四季折々に咲く花々を見に来ていただき尾瀬を楽しんでいただければ幸いです。

ぜひ新生山の鼻ビジターセンターにお立寄りください。



触れる毛皮



尾瀬のいきものたち



野鳥の鳴き声



シカのあれこれ



記念スタンプ



大好評 パッチ&マグネット

原をわたる風だより

尾瀬山の鼻ビジターセンターの西澤です。

今年の尾瀬は積雪量が極端に少なく、山の鼻ビジターセンター開所式は例年雪上での開催が普通なのですが、今年は土の上でした。寒さに負けず、きれいな花が咲いてくれることを祈ります。

コロナ禍があけて、それぞれの日常が戻ってきたと思います。

尾瀬に来ることを楽しみにされていた方も多いと思いますが、ケガをしないためにもしっかりとした装備を準備して、万全の態勢でお越しください。



西澤 政春

尾瀬は何年いても、毎々が新鮮です。

今年の冬は積雪が少なく、5月の連休には尾瀬ヶ原の残雪はほぼ消え、木道ができました。雪消えが早いと植



物(ミズバショウ等)への霜の影響が心配です。いづれにしても、尾瀬のシーズンが始まりますが、尾瀬探勝者の方が安全に自然を楽しんでいただく事を願います。

また、山の鼻ビジターセンターでは、植物や自然天候等色々な展示をしていますので、是非お立ち寄りください。

笹原 宗利

3年目の尾瀬勤務となりました。

今年は、コロナ禍対応の規制が緩和され、本来の尾瀬の賑わいが戻ることを楽しみにしています。過去2年間で、尾瀬で知り合えた方々とのコミュニケーションがベースとなり、業務でも私事でも尾瀬の守人として過ごせた日々は、私の人生の宝物となっています。

3シーズン目のビジター職員として、最後まで全員で、有意義な時間を過ごせたらと思いますので、よろしくお願いたします。



新保 正利

昨年度に引き続き、今年も尾瀬山の鼻ビジターセンターに勤務させていただくことになりました。

昨年、24時間尾瀬で暮らすことにより、さらに尾瀬のよさを実感しました。春からのお花のリレー、夏の青空のきらめき、秋の紅葉、朝や夕暮れの景色など、今年も尾瀬の自然のすばらしさや歴史、環境保護について伝えていきたいと思っています。ぜひ、たくさんの方々に尾瀬の自然のよさを味わっていただきたいです。みなさんのお越しをお待ちしています。

山の鼻ビジターセンター1年目の山田です。

皆さんと一緒に、尾瀬の素晴らしさや魅力を体感、共感したいと思っています。余裕をもって入山していただき、是非、ビジターセンターへお立ち寄りいただければと思います。お待ちしております。

ビジターセンター勤務1年目です。

尾瀬の山々や花はもちろんのこと、水のある風景や

広々とした空間が好きです。尾瀬を訪れた方に、尾瀬っていいなと感じていただけるように、尾瀬の魅力や安全登山のための情報などをお伝えしていきたいと思っています。

天津 祐子

今年より尾瀬山の鼻ビジターセンター管理員を務めさせていただきます。川畑と申します。

初めて尾瀬を訪れて以来、いつも違った表情をみせてくれる素晴らしい尾瀬の自然と尾瀬に関わる皆様にお世話になり、いつか恩返しが出来れば...と思っております。

まだわからないことばかりですが、精一杯学習し、素晴らしい尾瀬の魅力と情報を皆さまにお届け出来ればと思っております。よろしくお願いたします。

川畑 修

尾瀬山の鼻ビジターセンター1年目です。

まだわからない事が多く、不安もありますが、尾瀬の魅力皆さまに詳しく楽しく伝えられるよう、日々の業務を通して、学んでいきたいです。ビジターセンターにお越しの際は、是非お声掛けいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

稲村 幸大



おじよだより

5月からコロナ禍の行動制限がなくなり、尾瀬にも急に多くの入山者が入ってくるようになりました。久しぶりに聞こえてくる楽しそうな会話、少し不思議な気持ちで聞いています。まず安全第一、次に尾瀬でのよい思い出を持ち帰っていただきたい。尾瀬沼ビジターセンターがその助けになれば幸いです。



「ビジターセンターに立ち寄って良かったね」と言っていただけのような施設にしたいと思っています。そして、この尾瀬の自然がずっと続くことを願っています。

阪路 善彦

今年で尾瀬沼ビジターセンター4年目を務めさせていただくことになりました。初年度はコロナ禍が始まり、尾瀬への入山者も激減し、また多くの制限を伴いました。今年はその制限が取り除かれ、コロナ禍以前を模索する年となります。多くの皆さんに、尾瀬へ訪れていただくことを願っております。その時々尾瀬の情報を発信し、ご案内を行う、訪れる皆様に喜んでいただける尾瀬沼ビジターセンターになるよう、心掛けたいと思います。



齋藤 孝

今年2年目になります、馬場です。

昨年は、春夏秋の様々な面の尾瀬を見ることができた幸せなシーズンとなりました。朝昼夜、好天も荒天も、どの尾瀬も素晴らしく居住しなさいと見ることはできません。こんな尾瀬の素晴らしさを、訪れる多くの方々に知っていただくとともに、皆さんの安心・安全を守るための最大限の努力をしていきたいと考えます。今年も、どうぞよろしくお祈りします。

馬場 大祐

私が、初めて尾瀬を訪れたのは、1978(昭和53)年。高校3年生、夏休みの終わり。友人に誘われての山行。それは、それは、あまりに素晴らしく、2ヶ月後、家族揃っての尾瀬旅行。紅葉真っ盛りの尾瀬。家族揃っての最初で最後の尾瀬旅行。2006(平成18)年9月、父と2人で母との思い出の尾瀬へ。あの時と同じ松枝岐小屋さんに宿泊。それから私の尾瀬通いが始まりました。尾瀬が大好きです。どうぞお気軽にお声掛けください。

玉田 英司

尾瀬沼ビジターセンター2年目となる、八幡です。

尾瀬という、非日常な自然環境の中で半年間過ごせることを、大変光栄に思います。春のミズバショウ、夏のニッコウキスゲ、秋の紅葉、四季折々の尾瀬の魅力、来訪者の方々にわかりやすくお伝えできるよう、努めて参りますので、何卒よろしくお祈りいたします。

八幡 直輝



尾瀬沼ビジターセンター1年目です。年齢は65才。年食った新人です。42年間、マスコミの仕事をしてい

ましたが、全く違う仕事をしたと思い、飛び込みました。尾瀬には、毎年のように来ていますが、まだまだ知らないところがたくさんあります。もっともっと勉強して、尾瀬の自然の豊かさ、奥深さを皆さんに伝えられたらと思っています。よろしくお祈りします！

高瀬 一也

今年、尾瀬沼ビジターセンタースタッフ1年生です。山が好きで、週末は気が付いたら山にいた(笑)ような生活でした。尾瀬の四季の移り変わりをお伝えし、訪れる皆さんに尾瀬の自然を満喫いただき、「また行こうね」と言っていたただけの思い出作りのお手伝いが出来ればと思っています。是非、ビジターセンターへお立ち寄り下さい。

伊藤 信一

今年3月まで東京で福祉関係の仕事をしていましたが、「尾瀬が好き」という気持ちで、尾瀬の山々に通じたのか、ご縁があって勤務することになりました。

尾瀬を訪れる皆さんが安全に楽しむことができるよう、日々移りゆく現地の状況を発信してまいります。100年後の尾瀬も今と変わらず美しいままであり続けるために、自分ができること、やるべきことを考え行動していきたいと思っています。

大内 梨江子



4月から尾瀬保護財団の事務局長になりました、白田栄慈と申します。どうぞよろしくお願いたします。平成19、20年度に尾瀬保全推進室に在籍しており、2度目の尾瀬関係勤務になります。私は子供のころから自然の中で遊ぶのが好きで、多くの皆さんと同じように尾瀬が好きで「尾瀬のファン」の一人です。今年で群馬県庁職員生活34年目になりますが、尾瀬室で過ごした2年間は、県庁職員人生の中で、とても貴重で思い出深い2年間となっています。

3年間のコロナ禍を経て、尾瀬の入山者も大きく減少しています。これを読まれている皆様も、尾瀬から足が遠のいている方も多いのではないのでしょうか。先日、私も久しぶりに尾瀬に行き、「尾瀬ってやっぱりいいなあ。癒しがあるなあ」としみじみ感じました。皆さんも今年はぜひ尾瀬に訪れていただき、コロナで疲れた心の癒しを尾瀬からもらってみたいかがでしょうか。

尾瀬保護財団事務局長 白田 栄慈

4月に着任しました尾瀬保護財団事務局長の菊地広幸と申します。

近年、尾瀬の入山者数はコロナ禍の影響などから著しく落ち込みましたが、令和2年度の10万7千人で底を打ち、昨年度は16万3千人となり増加傾向にあります。

今シーズンもより多くの方々に尾瀬を訪れていただき、また、尾瀬を訪れたひとりひとりに、「自然を守りたい」と想う気持ちを持って帰っていただけるよう、当財団のミッションである「尾瀬での体験と感動を、自然を守る力に変える。」を改めて心に刻み、尾瀬の保護活動や適正利用の推進に取り組んで参りたいと考えております。

次長兼総務課長 菊地 広幸

こんにちは、今年の4月から尾瀬保護財団企画課長を務めております登坂と申します。私にとつての尾瀬の一番の魅力は「癒し」の力です。挑戦的な登山も楽しいですが、悩みやストレスを抱えた時には、尾瀬ハイキングほど心を癒してくれるものはありません。当財団業務に携わるようになり、尾瀬が多くの素晴らしい方々に支えられていることを知り、喜びを感じています。皆様のお力をお借りしながら尾瀬の様々な課題に取り組みとともに、魅力発信に力を注いでまいりますので、よろしくお願いたします。

企画課長 登坂英季



事務局は、事務局長を中心に、総務課4名、企画課8名（うち2名はシーズン中、VC勤務）の合計13名体制で本年は活動しております。どうぞよろしくお願いたします！

友の声 — 寄稿文募集 —

いつも尾瀬、尾瀬保護財団の活動を応援してくださっている皆様からの寄稿文を募集し、本誌にてご紹介させていただきたいと思っております。

尾瀬への想いや尾瀬での思い出など、読者の皆様・応募者様と尾瀬の関わりについての寄稿文をお待ちしています。

寄稿要領

1. 募集対象

個人の方(企業様単位でのご応募はご遠慮ください。)

2. 期間

随時募集

3. テーマ/内容

尾瀬への想いや、尾瀬での思い出など、皆様と尾瀬の関わりについてなど(特定のテーマに限定いたしません)

例:「尾瀬一筋〇〇年」「いつか行ってみたい憧れの場所」「山小屋でのひととき」「尾瀬での出会い」「忘れられない風景」「ボランティアでの思い出」など

4. 文字数

400~800字程度

5. 画像

文章を補足する画像データ(写真や図)があれば、本文とは別にしてお送り下さい(プリントしたものでも可能ですが、返却はいたしませんのでご了承ください)

6. 必須記入事項

次について、原稿に明記してください。

- ①氏名 ②住所 ③電話番号(連絡しやすい時間帯)
- ④メールアドレス(無い場合は不要)
- ⑤ペンネーム(実名希望の場合は不要です) ⑥タイトル

7. 応募方法

(1)Eメールへの添付もしくは、(2)郵便等で原稿を事務局までお送り下さい。(送料等は各自ご負担をお願いいたします)

※Eメールの場合は、編集できる形式でお送りください。

- (1)メールアドレス:harukanaoze@oze-fnd.or.jp
- (2)送り先:〒371-8570群馬県前橋市大手町1-1-1 20階
(公財)尾瀬保護財団事務局 機関誌担当宛

8. 必読事項

掲載にあたり、当財団機関誌として相応しい内容かどうか確認し、決定させていただきます。紙面の都合上、全ての寄稿文を掲載できるものではないことをご了承願います。

掲載決定後、応募者様へ電話連絡させていただきます。必要に応じて校正・校閲をさせていただく場合がございますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

● 今シーズンも積極的な尾瀬ボランティア活動をお待ちしています！

新型コロナウイルス感染症の影響による制限がほぼなくなり、今年の尾瀬はここ数年で一番の盛り上がりを見せています。ミズバショウの時期である5月末頃には、木道が渋滞するほどでした。

普段山歩きをされない方も気軽に訪れる尾瀬だからこそ、尾瀬ボランティアのみなさまの活動がより重要になります。啓発活動で案内する尾瀬のルールやマナーは、ひとりひとりが守ることで尾瀬の自然保護につながります。環境学習ミニガイドツアーやお話ボランティア等で尾瀬の自然や保護の取組を解説することは、訪れる方が尾瀬を理解し、大切に思うことにつながります。尾瀬を訪れる方が自然に配慮しながら尾瀬を楽しめるよう、ぜひ尾瀬ボランティアのみなさまのお力をお貸しください。



環境学習ミニガイドツアーの様子

今シーズンも積極的な活動への参加をお待ちしております！

● 研究見本園に植生保護柵を設置しました



植生保護柵設置の様子

5月中旬に、研究見本園の植生保護柵設置のボランティア活動を実施しました。

昨年の同時期は雪に覆われていた研究見本園ですが、今年は雪解けが早く、すでにたくさんのミズバショウが咲いていました。当日は山ノ鼻でも25℃を超える気温となり、汗ばむ中での作業となりました。

また、今年は企業ボランティアのみなさまに加えて、尾瀬ボランティアのみなさまにもご協力いただきました。積雪もなく、多くの方にご協力いただいたお陰で、作業もスムーズに進み、2日目の早い段階で設置完了となりました。

シーズン中、研究見本園でのニホンジカの食害を防ぎ、多くの植物を楽しむことができると期待しています！ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました！

外来植物除去作業(小沢平登山口)を行います！

今年も小沢平登山口にて、特定外来植物オオハングソウの除去作業を実施します。参加ご希望の尾瀬ボランティアの方は、下記までご連絡ください。

実施日時：7月29日(土) 9:00～

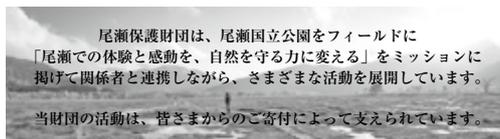
※詳細は、財団ホームページをご覧ください。 <https://oze-fnd.or.jp/ozg/vol/>

問合せ先：公益財団法人尾瀬保護財団(尾瀬ボランティア担当)

TEL: 027-220-4431 / FAX: 027-220-4421 / E-mail: info@oze-fnd.or.jp

寄付のお願い

美しい尾瀬を未来に引き継ぐために皆さまからのご支援をお願いします



■所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。

※所得税・法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税・市町村民税については、お住まいの都道府県・市町村にお問い合わせください。

■特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、以下の口座にお振込をお願いします。

福島県	群馬県	新潟県
東邦銀行県庁支店 普通 1078095	群馬銀行県庁支店 普通 0515428	第四北越銀行県庁支店 普通 1182791

※振込手数料は寄付者のご負担となります。何卒ご了承ください。 ※以下の口座を廃止いたしました。お振込の際には十分ご注意ください。

大東銀行福島支店口座 / 福島銀行本店営業部口座 / 東和銀行本店営業部口座 / 第四北越銀行(旧北越銀行)新潟県庁支店口座 / 大光銀行新潟支店口座

■注意事項

ご寄付の受領後、領収書等を作成・送付させていただきます。

ご住所及びご芳名が不明な場合、必要書類をお届けすることができません。必ず財団事務局へご一報ください。

■お問い合わせ先 公益財団法人尾瀬保護財団事務局(寄付担当) TEL: 027-220-4431 Mail: info@oze-fnd.or.jp



横断幕を更新しました！

自分が出したごみは持ち帰る、という「ごみ持ち帰り運動」。現在では多くの公園や観光地で定着している取り組みですが、尾瀬は、この「ごみ持ち帰り運動」発祥の地と言われ、1972〔昭和47〕年にごみ箱の撤去とごみ持ち帰りの呼び掛けが始まりました。この「ごみ持ち帰り運動」の普及・啓発を目的として、尾瀬のシーズン期間中、群馬県側の入山口(鳩待峠口・大清水口)にそれぞれ掲出している「横断幕」を、このたび、更新いたしました。

当該横断幕は「尾瀬国立公園標識ガイドライン」(環境省策定)に則って、周囲の景観に調和するデザイン(白と茶、黒を色調に、風通しよく木漏れ日に透けるメッシュ素材)を採用しています。

尾瀬ヶ原、尾瀬沼を訪れる皆さまの、目に、心に、ごみ持ち帰り=自然を守り継ぐ想いが届きますように。

全国(世界)各地から入山をいただく皆さま、尾瀬のな



新しい横断幕(令和5年5月31日 鳩待峠口掲出)

幕の下部には、当財団の活動趣旨にご賛同・ご支援を賜った寄付企業様、土地管理者様の企業ロゴマークを掲載。

かで活動・生計を立てる山小屋・ガイド等関係者の皆さま、ボランティアの皆さま、そのお一人お一人の心掛けに支えられ、尾瀬の美しさは保たれています。ありがとうございます。

令和5年の尾瀬シーズンも、ご理解とご協力をお願いいたします。

特別協賛寄付者のご紹介

※5月31日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

通算寄付額 5,396,790円

糸井商事

糸井ホールディングス

糸井商事株式会社 通算寄付額 8,400,000円



株式会社エコ計画 通算寄付額 7,000,000円

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

関東いすゞ自動車株式会社 通算寄付額 900,000円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社

通算寄付額 2,057,140円



株式会社ジーシー 通算寄付額 900,000円

一生涯のパートナー

第一生命



第一生命保険株式会社 群馬支社

通算寄付額 2,650,000円

Asset Management One
アセットマネジメントOne 株式会社
通算寄付額 42,087,309円
投資の力で未来をはぐくむ

尾瀬紀行
尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が17回目のご寄付となります。
通算寄付総額 84,174,617円

群馬銀行 株式会社群馬銀行
通算寄付額 38,937,075円※
私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます
（※）尾瀬紀行（ぐんぎん証券様分）、横断募寄付、ぐんぎんSDGs私募債、株主優待制度「寄付コース」、その他財団設立当初の一般寄付を含む。

第四北越銀行
DAISHI HOKUETSU BANK
株式会社第四北越銀行
通算寄付額 7,249,361円

第四北越証券
Daishi Hokuetsu Securities
第四北越証券株式会社 通算寄付額 1,978,893円

すべてを地域のために
東邦銀行
株式会社東邦銀行 通算寄付額 14,843,879円※
※尾瀬紀行（とうほう証券様分）を含む。

協賛寄付者のご紹介
※5月31日現在、五十音順、敬称略

仲間が広がる。繋がりが深まる
クラブツーリズム株式会社
通算寄付額 1,500,000円
クラブツーリズム

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額 1,300,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合
通算寄付額 2,300,000円

GN群馬日産自動車株式会社
群馬日産自動車株式会社 通算寄付額 1,200,000円

KDDI株式会社
通算寄付額 556,700円

佐田建設株式会社
SATA 佐田建設株式会社 通算寄付額 300,000円

Smile Park
SMARK ISESAKI
スマーク伊勢崎
通算寄付額 1,500,000円

利根郡信用金庫
利根郡信用金庫 通算寄付額 4,045,390円

このまちの笑顔をつやそう。
とりせん
株式会社とりせん
通算寄付額 2,878,562円

NICHINEN
株式会社ニチネン 通算寄付額 1,600,000円

ひかり接骨院
通算寄付額 793,000円

その他の寄付者のご紹介 ※令和5年2月1日～令和5年5月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

大野領一、尾崎喜一、群馬県電力関連産業労働組合総連合、小花光雄、松田直也

皆さまからのご寄付の使途について（尾瀬保護財団の主な活動）

皆さまからのご寄付は、旅行会社や登山者への普及啓発活動、ビジターセンターでの自然解説活動、公衆トイレや木道の維持管理、至仏山の環境保全対策、ニホンジカ対策、ツキノワグマとの共生、外来植物対策など、幅広い事業に役立てられます。



入山口啓発活動



至仏山登山道柵立て作業



シカ柵（ニホンジカ侵入防止柵）設置作業



自然解説活動（自然観察会）



木道の栈木打ち作業



特定外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業

表紙の風景

その魅力に引き込まれ、今では夏になると山小屋で働くなど尾瀬で日常を過ごす中、日課のように足を運んでいたのが毛糸の絵になったこの場所です。

ここからは燧ヶ岳に尾瀬沼、大江湿原を見渡せ尾瀬の空気や音を全身で感じる事ができます。水面はもちろん、木々や水草までもがキラキラと輝く美しい光景を前に、それを毛糸で表現したくなるのはとても自然な事でした。

ただ、実際に制作に取り掛かってみると自然の完璧さに圧倒されます。人工的なものとは違い自然界は無数の色で溢れています。そんな微妙な色の違いを糸で表現するのは本当に根気がいる作業で、植物を一本一本植えるように制作していたら完成までに半年もかかっていました。途中で心が折れそうになりましたが、なんとか完成させることができたのも底知れぬ魅力が『尾瀬』にあるからではないでしょうか。

毛糸アート作家 勅使河原祐子



尾瀬インスタグラム投稿キャンペーン実施中！

- STEP 1** 公式アカウント (@discoveroze) をフォロー
- STEP 2** 2023シーズンに尾瀬国立公園内で写真を撮影
- STEP 3** #尾瀬フォト2023 をつけて、撮影日と撮影場所を記載して投稿



詳細はキャンペーンお知らせページへ



@nozawaonsen_tours

《ビジターセンターイベント》

ビジターセンターでのイベント開催については、尾瀬保護財団ホームページで随時お知らせいたしますので、是非ご参加下さい！

《友の声募集》

皆さまからの尾瀬での思い出などのご寄稿文お待ちしております。詳しくは、P8をご覧ください。

友の会コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年4回(5月・8月・11月・2月)です。

※11月1日からの加入・更新をご希望の方は9月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (企業・団体等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッジ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：入浴料割引
対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://oze-fnd.or.jp/ozg/fc/>

！編集後記！ 小1の姪を連れて、ミズバショウを見に鳩待峠から尾瀬ヶ原に向かいました。始めは楽しそうに、咲いている花を植物図鑑で探しながら歩き、目標は牛首までいけたら・・・と思いきや、山ノ鼻到着時点でもう疲れたと言う彼女にどうにか歩いてもらい原の川上橋まで行って戻りました。しかし、帰り道に先頭を歩かせてみると、なんとはいやいこと。どうやら飽きずに歩くための、工夫が足りていなかったようです。ともかく、よく頑張って歩きました！次は山小屋に挑戦ですね。(大澤)



OZE Mobile
スマートフォンサイト

- 緊急情報
- お知らせ
- ライブ映像 など

Twitter
尾瀬情報配信中

尾瀬の情報を随時発信します



@oze_info

尾瀬保護財団note

尾瀬に関するさまざまな
記事を投稿します

